

仙台市博物館協議会(令和3年度第2回)会議録

1. 会議の年月日 令和3年7月20日(火)

2. 開会及び閉会の時刻 午後3時から午後4時30分まで

3. 出席委員の氏名(五十音順・敬称略)

跡部薫、尾崎彰宏、菊池勇夫、佐川正敏、佐治ゆかり、佐藤憲子、伊達泰宗、長岡龍作、森美智子

※高橋綾子委員は欠席。一部の委員はオンラインでの出席。

4. 説明者の職及び氏名

館長＝高橋泰、副館長＝高橋あけみ、庶務係長＝高橋薫、学芸企画室長＝酒井昌一郎、

学芸普及室長＝樋口智之、指導主事＝飯淵泉、学芸企画室主任・記録＝佐々木徹

5. 議題及び報告並びに議事の要旨

(1) 会議録署名委員の選任

会長と菊池委員とする。

(2) 報告事項

① 令和3年5月～令和3年6月の観覧者数について(庶務係長報告)

「資料1」のとおり。

② 企画展 仙台市博物館開館60周年記念祭「たっぷりわくわく名品尽し」の結果報告について(学芸企画室長報告)

「資料2」のとおり。

〔委員からの意見〕

60周年のすごろくに入れる内容やデザイン等は誰が作業を進めたのか。また反応はどうであったか。

〔事務局からの回答〕

館職員でプロジェクトチームを作って行った。反応については明確な声はわからないが、多くの方に持っていらった印象がある。

〔委員からの意見等〕

1日平均151人という観覧者数についてはどのように考えているか。

〔事務局からの回答〕

平日は2ヶタだが、土日に集中して来場されていた。コロナ禍の影響もあってか人数的には決して多いとは言えないが、観覧者の喜ぶ声が聞かれ、また学校団体が増えたことが重要だと考えている。

③ 特別展「ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展」の中間報告について(学芸企画室長報告)

「資料3」のとおり。

〔委員からの意見等〕

ミイラ(棺)の立体展示は迫力があって、とてもいい展示と感じた。

〔委員からの意見等〕

輸送や展示に多くの制約があったかと思うが、中野先生の監修でもあり、展示物や展示方法によく工夫がなされていると感じた。

〔委員からの意見等〕

観覧者の想定人数はあるのか。また他館と比べて観覧者数はどうか。他館との展示の違いはどうか。

〔事務局の回答〕

7万人を想定しながら完走できることを目指している。現在までの観覧者数は、他館と比べても遜色がないと考えている。12の棺が1カ所に展示されたのは1つ前の東京会場からであり、これまでにあまりない展示である。

〔委員からの意見等〕

講演会等において生配信、あるいは期間限定でオンデマンド配信するなど、対面と配信のハイブリッドをもう少し考慮してもよいのではないか。

〔事務局の回答〕

その通りであると思うので、今後どのようにやれるか検討したい。ただし美術工芸資料については、資料所蔵者による許可関係に厳しい面もあるので、そうした面を配慮しながら考えていきたい。

④教育普及事業について(指導主事報告)

「資料4」のとおり。

⑤市史活用推進事業及び資料レスキューについて(学芸普及室長報告)

「資料5」のとおり。

〔委員からの意見等〕

令和4年3月に予定されている仙台防災未来フォーラム2022への参加について、パネル展示を予定しているようだが、国際的な対応についてはどのように考えているか。

〔事務局からの回答〕

昨年度のフォーラムは日本人のみが来場対象者であったが、もし国際的なフォーラムになるようであれば、英語対応等も行っていきたい。

⑥その他

〔委員からの意見等〕

今回の協議会のWeb会議について、事務局側の回答が聞こえづらい。また資料の事前準備について不備があったように思う。検討いただきたい。

〔事務局からの回答〕

音量調整や事務局側の発声方法、資料の事前準備等、今後しっかり対応していきたい。

(3) 協議事項

①大規模改修中の活動について(学芸普及室長報告)

「資料6」のとおり。

〔委員からの意見等〕

休館中に他館で行う展覧会について、地域的にはどこまでの範囲となるのか。

〔事務局の回答〕

一つの館は九州、もう一つは県内、できれば市内を想定して検討中である。

〔委員からの意見等〕

教員向けの研修は、これまでも行ってきたか。

〔事務局の回答〕

ミュージアムセミナーや教育センターとの連携による研修等、これまでも随時行ってきている。

〔委員からの意見等〕

近現代関係の公文書を公文書館へ移管することについて、歴史民俗資料館など、仙台市内の他の施設とのすみ分けについてはどのように考えているか。

〔事務局の回答〕

博物館と公文書館準備室とで検討を続けてきているが、今後はそうした地域とのつながりも見越して検討していきたい。

〔委員からの意見等〕

学芸サイドからすると、2年半の休業期間はすごいチャンスである。ぜひ様々な調査・研究に関する時間を確保し、他館との交流・研修等も行い、学芸員自身の実力を充電・蓄積する良い機会ではないか。

〔事務局の回答〕

とてもありがたいご提案をいただいたと思っている。将来の展覧会や調査・研究に資する良い機会であり、ぜひ進めていきたい。

〔委員からの意見等〕

休館という状況が、今後30年間の博物館をPRするためのいい機会なのではないか。休館中に行われる対外的活動の意義、展示室が改修されることの意義、学芸員が力を蓄えることの意義等、それら一つ一つの意義と内容を外へしっかり伝えることが重要なのではないか。休館こそ上手に活用すべきではないだろうか。

〔事務局の回答〕

本当にその通りであり、それらの意義と内容を市民の方に知っていただく機会としたい。非常によく考えさせられた。ご意見をしっかりと踏まえて検討していきたい。

〔委員からの意見等〕

将来的な展覧会の開催情報を、もっと早めに提供してほしい。

〔事務局の回答〕

適切に対応していきたい。

〔委員からの意見等〕

これまでとどう違う歩みを今後見せてくれるのか、その違いがどう出てくるのかを期待している。

〔事務局の回答〕

60周年記念祭で少し試したこともあったが、ご指摘の点も踏まえて検討したい。また60年史を作成するなかで同様に考えていきたい。

②その他

なし

(4)その他

①その他

〔事務局の説明〕

次回の博物館協議会開催日程について(副館長による口頭説明)

次回の令和3年度第3回協議会は令和4年2月8日(火)15時からの開催を予定している。なるべく館内で行いたいと考えているが、この時期は大規模改修の最中であるため、館内ではできない可能性があり、日程や場所の変更が必要な場合もあり得る。随時、連絡を取り合いたい。